

NUMAZU

まちの
感触

vol.5

時

沼津の「時」にまつわる個店の深〜い話

NUMAZU

まちの
感触

＼ SNSでも情報発信しています /



#沼津まち感

五感で感じる まちなか商業

沼津の駅前、いつもの日常、いつものまちなみ。昔から変わらざるある老舗、新装オープンした新しいお店も気になる。朝の通勤時、ランチタイム、夕方から夜の店の雰囲気……。なんとなく『時』を気にして見渡すと、あのお店も、この通りにも、個性あふれる『時』の流れがあるではないですか！さらに、五感をフル回転してみると、日常に溶け込んでいたまちの色、音、匂い、その感触は、今まで見えていなかったまちの奥深い魅力に気付くきっかけとなりました。

今回はそんな『時』をテーマに、沼津のまちなかの特徴ある個店取材。『時』に秘められたひとつひとつのお話には、深い深い魅力が詰まっていた。さあ、いつものまちとお店を、ちょっと違った視点で楽しんでみよう！

CONTENTS

- 02 沼津市中心市街地MAP
- 03 特集
時を紡ぐ個店でまちの深みを感じる
- 05 ほさか
- 07 福島屋 / つじ写真店
- 09 まちの1日 ~時の移ろい
焼きたて食パン専門店 一本堂 /
On the terrace / スナック朱磨
- 11 時を忘れるほど夢中になる時間
みんなの図書館さんかく沼津 /
珈琲舎 フレイバァ / RAZZMATAZZ /
コミュニティースペース わたらいクリーニング
- 13 地域CREATORのまちなかの時
- 14 編集後記

NUMAZU CENTRAL MAP

沼津駅を中心に南と北、それぞれのエリアを感じる今回のテーマは『時』。時を感じてまちを歩けば、個性的な個店が醸し出すまちの濃淡に気づくかも!?

焼きたて食パン専門店
一本堂 P09

コミュニティースペース
わたらいクリーニング P12

みんなの図書館
さんかく沼津 P11

沼津駅

ほさか P05

RAZZMATAZZ P11

珈琲舎 フレイバァ P12

スナック朱磨 P9

On the terrace P9

つじ写真館 P08

福島屋 P07

時の重ね方、 その眼差し



特集

時を紡ぐ個店で まちの深みを感じる

積み重ねてきた歴史、先進的な新しさ、太陽の動きとともに過ぎゆく一日、時計が刻む時間……。時間はみんなに平等にありますが、人それぞれ感じ方も違う『時』に注目してまちやお店を見渡してみると、その店の隠れた魅力や知られざる工夫など、驚きの『時』の理由があったりします。

例えば、まちのお菓子屋さん。お菓子を製造する工程には、時代とともに変化する工夫が詰まっています。変えない部分と、更新し続ける事。季節により変わる原材料や商品があったり、お店を取り巻く景色も、時の移ろいとともに変わります。創業時の物語から始まり今に至るお店の歴史には、そこに関わる人の想いが、重ねる時間の分だけ詰まっていたりするのは。「時」からはじまるお店やまちの奥深さ、もっと知りたいと思いませんか？

昭和4年から 変わらないレシピ

パッケージのデザインが変わっても、栗せんのレシピは創業時から変わりません。原材料は大手亡(白いんげん)、卵、砂糖の3種類だけ。今回のリニューアルに合わせて、さらに素材を厳選して味もグレードアップ。なぜ栗の形をしているのかは創業者のみぞ知る…謎です。



歴代社長の思いを引き継ぎ、保坂裕子店長が中心となって新たな挑戦がはじまります。さらにおいしくなった栗せんのほか、これから地元の食材とのコラボ商品もぞくぞく登場する予定です。



招福の井戸と文化の泉

敷地には明治時代の蔵を改装した喫茶店 淡月居や英語教室、ギャラリーがあります。この場所から沼津の文化が育ち、多くの才能が巣立っていきました。沼津城のものと噂される招福の井戸ではフォークソングのライブが行われるなど、イベントスペースとしても注目されています。



静岡県沼津市大手町5-2-9
TEL 055-951-1515
営業時間 11:00~19:00 定休日:水曜
※商品の在庫状況によって14:00に閉店する場合があります。
<http://www.kurisen-hosaka.visithp.jp/>

ほさか

次の100年へバトンを渡す、 ほさかの新たな挑戦



ほさかの創業は1928年、保坂貢さんと久子さんの若い夫婦がはじめた菓子店でした。アイデア豊富な起業家の貢さんによって考案された栗せんは「名物にうまいものありほさかの栗せん」のキャッチコピーとともに全国に知れ渡り、手軽に買える沼津土産として人気を集めました。一方で戦後間もない頃、久子さんが気さくに地元の子どもたちへお菓子を配り、地域にも深い愛情を持って接していくなかで、次第に沼津の人びとにとって身近なお菓子となりました。しかし、製造機械の老朽化にともない2018年に工場を閉鎖、一時閉店することになったのです。

しかし、その間も栗せんの復活を待ち望むファンからのメッセージは絶えませんでした。そして、創業者の孫の一人である山野楽器の山野政彦さんが「大好きだった祖父と栗せんの思い出を守りたい。創業100年をこの地で迎えたい」とリニューアルを決意。彼と意思をともにする保坂裕子店長の力によって、新たな「ほさか」が誕生しました。地元つながりを大切に、どこでも買えるものではなく、ここでしか買えないものへ。リニューアル後は、店内に栗せんの製造機械を設置し、ここでつくられたものだけを販売しています。店舗もパッケージも大きく変わりましたが、つくり方はそのままに素材にこだわり、おいしくなりました。創業者の知恵と愛情のバトンは子から孫へ受け継がれ、次世代の沼津銘菓がここから生まれていきます。



シャッターを切る一瞬、 思い出は永遠に

「特別じゃなくて誰でも入りやすい写真館でありたい」と、この地で55年、つじ写真館はたくさんの方の姿をみつめてきました。さらに写真を楽しむ機会を増やそうと、60歳以上限定の「寿記念」(6,600円)、コロナ禍から始めた夏限定の「マイフォト」(3,850円)といったスタジオ撮影プランのほか、沼津をテーマにしたフォトコンテストの企画も行っています。

東日本大震災をきっかけに、家族写真は結婚や独立など節目に撮影するものから、家族がそろった幸せな瞬間を残すものに

変化したそうです。そうして、家族写真が増えることで、だんだん物語になっていく…。大切な一瞬を逃すことなく撮影できるのは、プロの技術と知識があつてこそ。さらに、スタッフの細やかな気配りとなごやかな場づくりによって、思い出ごと真空パックしたような一枚が完成するのです。



つじ写真館

静岡県沼津市上土町36
TEL 055-962-1384
営業時間 9:30~18:30
http://tsuji-photo.com/

定休日: 水曜
f i g



”とびきりごくじょう” 飛切極上“の味を 後世につなぐ

明治10年創業の福島屋は145年にわたって沼津の食文化を支えてきました。店内には生麩や調味料、竹串のほか、特級、二等…と昔ながらの等級でランク付けされた昆布や豆も並んでいます。なかでも目を引く一品、「飛切極上」と書かれた丹波産黒豆は色艶がよく、一番大玉。福島屋の目利きを信頼して、プロだけでなく、口コミで料理愛好家たちも訪れます。今も量り売りなのは、食材を自然な状態で販売したいというこだわりと、袋に詰める時間に交わすお客さまとの会話を大切にしたいという思いから。

2020年には沼津市が主催するリノベーションスクールに参加して、店舗内装とロゴデザインも一新。メンバーと一緒に壁塗りや改装を行い、ナチュラルな雰囲気になりました。これからも沼津で「本物の味」を伝えていきたいと店主の阪東邦彦さんはおだやかな笑みをこぼします。



福島屋

静岡県沼津市魚町2
TEL 055-962-0964
営業時間 9:00~18:00 定休日: 日曜
https://www.fukushimaya.shop/



毎週水曜日は、心地よいランチタイムをまちなか狩野川で。

狩野川右岸の階段堤「かのがわ 風のテラス」で毎週水曜日に開催される「On the terrace -Lunch market-」。お弁当、パンなどランチから、コーヒーやデザート、さらにはボディケアまで、豊富なラインナップの出店者。2018年から続くランチマーケットのファンは多く、足を運ぶ人々の交流の場にもなっている。「周辺はオフィス街なので、働いている方のランチタイムが楽しい時間に。そして、午後もがんばるためのスパイスを提供できたら」と、主催の望月隆明さん・智美さんご夫婦は回を重ねながら工夫を続ける。お弁当、ボディケアは事前予約がオススメ。



On the terrace -Lunch market-

開催場所：かのがわ 風のテラス
開催日：毎週水曜日、不定期で休日開催あり
営業時間 11:00～14:00
(コーヒー・他ドリンクの販売 11:00～、お弁当・焼き菓子の販売 11:30～)
※専用駐車場なし。近隣の有料駐車場をご利用ください。



沼津のまちなかで見つけた、一日の終わりにほっとひと息つく場所。

大人の夜を楽しみたければ「スナック朱磨(すま)」の扉を叩こう。音楽好きが集まる店内に一步足を踏み入ると、昔、お客さんが描いたという大迫力の壁画が目飛び込んでくる。ジャズ・トランペット奏者、マイケル・デイビスなど5人のジャズマンが描かれ、カラオケを楽しむお客さんのステージになっている。そして、お酒の他に、ママの久保井美保子さんが淹れる、ハンドドリップのコーヒーが味わえるのも魅力のひとつ。メのコーヒーを飲むために立ち寄るお客さんもいるのだとか。初めてスナックを利用する際は、「ママの部屋を覗きに行く」そんな気持ちで足を運んでみて。



スナック朱磨

静岡県沼津市大手町4-6-8
TEL 055-963-4816
営業時間 19:00～0:00
定休日:月曜日、第3火曜



幸せな一日のスタートに「一本堂の食パン」

店主の中田詠一さんが厨房に立つのは朝4:30。焼き上がり予定時刻に合わせて、オープンから13:30まで、約8種類の食パンが順次店頭で並んでいくのが「一本堂」のスタイル。発酵時間の見極めが仕上がりに影響したり、焼き時間が1分違うだけで風味や食感が変わったり、「時間」がおいしさの鍵を握っている。人気商品は、国産小麦100%の「にほん」の食パン。好みの厚さに無料でスライスしてくれるサービスがうれしい。(お店オススメは5枚切り。粗熱の取れていない食パン、れーずん、ミニちーずなどに具材が入っているものを除く) 季節の味が楽しめる、月替わりの限定食パンもぜひ試してみてください。



焼きたて食パン専門店 一本堂 沼津リコー通り店

静岡県沼津市新宿町17-10 TEL 055-939-9640
営業時間 9:00～18:00 ※完売次第閉店
定休日:日曜、その他不定休あり
※提携コインパーキングあり
LINE公式アカウント「@592tkxpa」でID検索



まちの1日 ～時の移ろい

太陽と共に変わるまちの景色。朝、昼、夕方から夜、それぞれの時間にオープンするお店は、それぞれの素敵な時間の使い方を提案してくれます。

いつの間にかこんなに時間が経ってた！ そんな経験ありませんか？ 夢中になるには理由あり、時を忘れてしまうほどの居心地の良さととは？！

時を忘れるほど夢中になる時間



地下の隠れ家のおとな時間

‘大人の隠れ家’フレイバァは地下にある喫茶店。階段をおり扉を開けるとウッド調の店内が広がっている。オーナーの山下さんが沼津で店をはじめて45年。店内でつくるケーキと優しい風味のハンドドリップコーヒーには熱的なファンが多い。フィルターにお湯を注ぐ真剣なまなざしや、無駄のない動きについ見とれてしまう。散歩の途中で寄ると決めている人、週に3回は来る人、ひとりで本を読む人、商談の人。すごし方はひとそれぞれ。地上の喧騒と時間の概念からしばし離脱するのもいい。

静岡県沼津市大手町5-5-21 倉田ビル地下 TEL 055-951-7571
営業時間 9:00～19:00
定休日:水曜



珈琲舎(コーヒーヤ)
フレイバァ



開いたら、最後。

多くの読書好きのねがい、それは時間を気にせず本を読むこと。「みんなの図書館さんかく沼津」では、毎月「箱代」を支払えばそこに自分の推す本を置くことができる。「お金を払って自分の好きな本を人にすすめる」という一風変わったシステムにハマる人が増えている。借りるのは無料。貸出期間が1ヶ月と長いのも嬉しい。利用者同士で本の感想を伝えあうこともできる。読書の沼にハマった者同士のコミュニケーションの中に、次に読む本のヒントが潜んでいることも。時間という概念があったことすら忘れてしまう没入感の快に浸ろう。

静岡県沼津市高島町15-5(ぬましんCOMPASS内) TEL 090-6099-3313
営業時間 平日 9:00～17:00、第1,3,5週の土曜 10:00～17:00
<https://www.sancacunumazu.com>



みんなの図書館
さんかく沼津

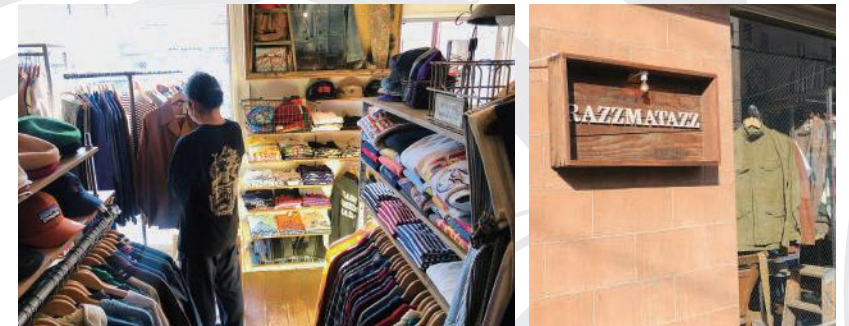


あらい場からたまり場へ 時を経て変わる街とのつながり方

先代がクリーニング屋を営んでいた頃、幼かった渡会さんは「じいちゃんの店」があるオマチに行くのが楽しみだった。近所には今でも「渡会さんとお孫さん」と声をかけてくれる人もいる。商店街の行事に積極的だった祖父の姿を小さい頃から見ていたからか、渡会さんは大人になり自然な流れで街づくりに参画するようになった。コミュニティスペースとして生まれ変わった「わたらいクリーニング」には、ゆるーく人が集まり自然と会話が生まれる。起業を目指す人を応援したいという想いからチャレンジ出店も受け入れている。あらい場からたまり場へ。たまり場に流れる時間の心地よさにハマる人が増えている。

静岡県沼津市高島町28-15
営業時間 金曜 16:00～21:00 イベント開催時は土日もオープン
※その他の営業に関しては不定期なのでインスタをチェック

コミュニティスペース
わたらいクリーニング



古着がこえてきた時をおもう時間

2004年11月開業の古着屋。商品のほとんどはオーナーの野村さんがアメリカで直接仕入れてくるもので、古くは1930年代のものから取り揃えている。ビンテージのもつ時代背景や経年変化のよさには、何ものにも変えがたい価値があると野村さん。買ってもらえるのはもちろん嬉しいけれど、それよりまずはアイテムをじっくりみてほしいという。店で売っているのはアイテムのもつストーリーそのものだと考えており、古着に対する愛情が深いことが伝わってくる。自分自身も中学生の頃からずっと古着が好きだそう。来店したお客さんにはあえて店主から声はかけず、求めに応じて説明を添えるスタンス。小気味よいほっとかれ感に身を委ね、ゆっくり古着との対話を楽しみたい店。

静岡県沼津市添地町152 鈴木ビル1F TEL 055-962-5052
営業時間 12:00～20:00 不定休

RAZZMATAZZ(ラズマタズ)

編集後記



「五感で感じる」というテーマではじまった、まちなか商業の魅力発見BOOK、第5号は、「時」にフォーカスしました。それぞれの個店で感じる時間に、いつもとは違うお店の魅力に気付くきっかけになれば幸いです。さて、「時」とは、万物・宇宙・生物に与えられた変えられない法則であり、「時間」とは、物事の変化を計るための概念、物差しといえます。もともとは太陽や月の動きが時間そのものであったことから、時とは移ろいゆくものと認識しますが、時の感じ方は人それぞれ。人それぞれの世界観があるということになりますね。一つ言えるのは、今、まさにこの一瞬が一人一人にあるということ。過去を思い、未来を考えた。今、この場所でどう過ごしましょうか。さあ、五感を研ぎ澄まして、まちを歩いてみよう。

NUMAZU まちの感触 vol.5

2022年1月28日発行

発行 沼津市商工振興課

〒410-8601 静岡県沼津市御幸町16-1

制作進行

アートディレクション・デザイン

撮影 (表紙・P3~P6・P9下・P14)

イラスト

取材・執筆

(P5~P8)

(P9~P10)

(P11~P12)

増田陽一 (SBSプロモーション沼津支社)

大木真実 (NUMAZU DESIGN CENTER)

梁充克 (minori photo works)

大嶽りや (Lib.)

森岡まこば

増田都佳佐

宮代博美

本誌制作 地域CREATOR のまちなかの時



毎年、まちなかの同じ場所でその時期になると咲く見事な植木を見ると、ああ、今年もこの季節が来た、時の移ろいを感じます。あの店の前の紫陽花、あの交差点の河津桜、あの商店街のつる薔薇…。その時々、心豊かに感じる日常があるのは、人知れず手入れされている方がいらっしゃるからですね。

大木真実



最近、まちなかの個店で食事をするのが好きです。家族や友人と自転車を走らせたり、歩いて行ってみたい。ああ、こうだと話しながらお店へ行き、食事中もその後もああ、こうだと話しながら帰ります。特別なことはないけれど、良い時間過ごしているなぁと毎回思うのです。

大嶽りや



正午と夕方にチャイムが鳴る沼津市。正午には「沼津市歌」(5月上旬のみ期間限定で「こいのぼり」)、夕方には子守唄「この子のかわいさ」のメロディーが流れます。このチャイムは、すっかり私の日常に溶け込み、親しみのある時を知らせる合図になっています。

増田都佳佐



沼津市民になって干支が一周超えました。12年というと、生まれてから小学6年生になる位。あの頃は、割と楽しい思い出ばかりでしたね。なので、引き続き「沼津」でもあの頃に引けを取らない、楽しくて充実した暮らしのために、学び続けていこうかと。

増田陽一



沼津の街にはこだわりのコーヒースタンドがいくつもあります。その日の気分で店を決めてテイクアウトをして、千本浜から海と富士山を眺めながらコーヒーを飲むひとりの時間が好きです。一杯を飲み終わるまでの束の間、波の音だけが聞こえて最高なのです。

宮代博美



沼津の夜といえば、BAR。まだ実現できていないけれど一人でふらっと梅邑BARへ行って、時を忘れてお酒を楽しみたいです。あと、月夜のうさぎ天文台。何万光年先の星々に思いを馳せながら、隣にある酒の矢田でビールを買って乾杯したいなあ…。あ、お酒が飲みたいですね(苦笑)。

森岡まこば



子供の頃は何か独特な雰囲気を感じていた沼津銀座。時がたち、素敵なお店も増えて、今はよく通います。きれいすぎず、まだちょっとあやしさも残る感じが好きです。

梁充克